

出生数が5年ぶりに増加

～ 住民基本台帳に基づく人口 ～

今号の特集では、福岡市における平成18年9月末現在の住民基本台帳に基づく人口及び平成18年の人口動態を紹介します。

1. 概況

人口は前年比13,237人(1.0%)の増加

平成18年9月末現在の住民基本台帳に基づく福岡市の人口は1,361,060人で、前年比13,237人(1.0%)の増加、世帯数は630,866世帯で、前年比12,832世帯(2.1%)の増加となっています。

性別では、男性は648,387人(構成比47.6%)で、前年比5,545人の増加、女性は712,673人(同52.4%)で、前年比7,692人の増加となっています。女性を100とした場合の男性の割合を示す「性比」は91.0となりました。

1世帯当たり人員は2.16人で前年比0.02人の減少となっています。毎年、人口、世帯数ともに増加していますが、人口の伸びが世帯数の伸びに比べて小さいため、1世帯当

り人員は減少が続いています。(表1, 図1)

「住民基本台帳に基づく人口」とは...

福岡市が公表している「住民基本台帳に基づく人口」とは、福岡市に住民登録をしている人を集計したもので、外国人を含みません。なお、集計上の転出者の取り扱いについて、従来は届出日基準で集計していましたが、平成18年3月末時点から異動日基準で集計し

図1 人口及び1世帯当たり人員の推移

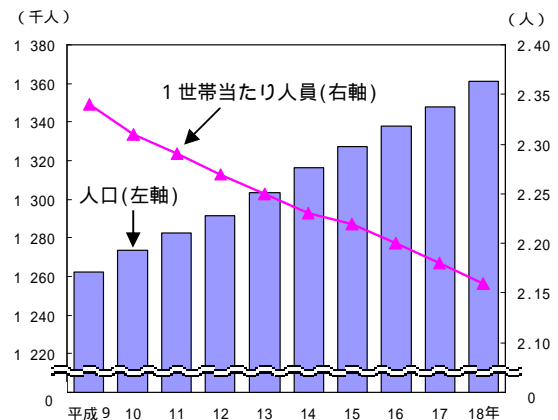


表1 住民基本台帳に基づく世帯数，人口及び1世帯当たり人員の推移

	世帯数		人口		男	女	性比	1世帯当たり人員
	前年比		前年比					
	世帯	%	人	%	人	人		人
平成9年	540 292	2.2	1 262 159	1.0	608 619	653 540	93.1	2.34
10年	551 077	2.0	1 273 833	0.9	613 488	660 345	92.9	2.31
11年	560 143	1.6	1 282 580	0.7	616 690	665 890	92.6	2.29
12年	569 340	1.6	1 291 542	0.7	619 940	671 602	92.3	2.27
13年	579 166	1.7	1 303 253	0.9	624 601	678 652	92.0	2.25
14年	589 349	1.8	1 316 222	1.0	630 069	686 153	91.8	2.23
15年	598 954	1.6	1 327 099	0.8	634 863	692 236	91.7	2.22
16年	608 510	1.6	1 337 576	0.8	639 168	698 408	91.5	2.20
17年	618 034	1.6	1 347 823	0.8	642 842	704 981	91.2	2.18
平成18年	630 866	2.1	1 361 060	1.0	648 387	712 673	91.0	2.16

各年9月末現在

ています。このため、それ以前と比較する際には注意が必要です。

ちなみに、毎月1日現在で公表している「推計人口」とは、国勢調査の人口に毎月の住民登録や外国人登録の増減を加えることにより集計したものです。

2. 行政区別人口

東区が人口、世帯数とも最多

行政区別に人口及び世帯数を見ると、東区が人口、世帯数ともに最も多く、人口は265,166人（構成比19.5%）、世帯数は117,609世帯（同18.6%）となっています。以下、人口は南区（同17.8%）、早良区（同15.3%）と続き、世帯数は南区（同17.4%）、博多区（同15.5%）と続きます。

性比を見ると、中央区が79.5と他の行政区に比べて女性の割合が際立って高くなっています。

1世帯当たり人員を見ると、最も多いのは西区の2.47人で、以下、早良区（2.36人）、東区（2.25人）と続き、都心部に位置する中央区（1.80人）及び博多区（1.88人）は、福岡市全体（2.20人）を下回っています。

平成17年からの人口及び世帯数の増減を見ると、すべての行政区において、人口、世帯数ともに増加しています。

人口は、実数、伸び率ともに中央区（3,180人、2.0%）が最も大きな伸びを示し、次いで博多区（3,067人、1.7%）となっています。

世帯数は、実数、伸び率ともに博多区（2,927世帯、3.1%）が最も大きな伸びを示しており、次いで中央区（2,566世帯、3.0%）となっています。（表2、図2）

図2 行政区別世帯数及び人口
（構成比，%）

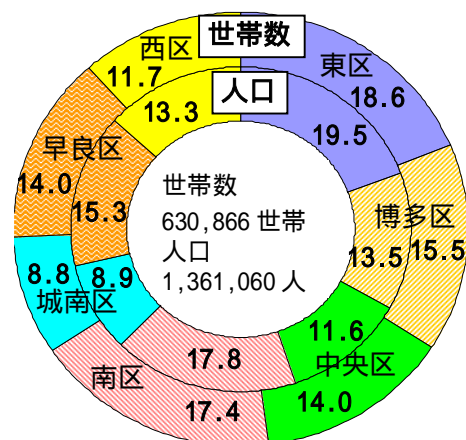


表2 行政区別世帯数及び人口

	平成17年		平成18年						増減			
	世帯数	人口	世帯数	人口	1世帯当 たり人員			世帯数	前年比		人口	前年比
					男	女	性比		世帯	%		
福岡市	618 034	1 347 823	630 866	1 361 060	648 387	712 673	91.0	2.16	12 832	2.1	13 237	1.0
東 区	115 516	262 630	117 609	265 166	129 602	135 564	95.6	2.25	2 093	1.8	2 536	1.0
博多区	95 066	180 681	97 993	183 748	89 749	93 999	95.5	1.88	2 927	3.1	3 067	1.7
中央区	85 659	155 360	88 225	158 540	70 197	88 343	79.5	1.80	2 566	3.0	3 180	2.0
南 区	108 232	241 818	109 651	242 776	114 738	128 038	89.6	2.21	1 419	1.3	958	0.4
城南区	54 992	120 843	55 436	120 970	58 006	62 964	92.1	2.18	444	0.8	127	0.1
早良区	86 893	207 195	88 329	208 178	99 167	109 011	91.0	2.36	1 436	1.7	983	0.5
西 区	71 676	179 296	73 623	181 682	86 928	94 754	91.7	2.47	1 947	2.7	2 386	1.3

各年9月末現在

3. 年齢別人口

生産年齢人口は減少, 老年人口が増加

年齢構成別に人口を見ると, 福岡市全体では, 15歳未満の「年少人口」が占める割合は14.0%で, 平成17年の14.1%から0.1ポイント減少しています。

次に, 15~64歳の「生産年齢人口」が占める割合は70.1%で, 平成17年の70.5%から0.4ポイントこちらも減少しています。一方, 65歳以上の「老年人口」が占める割合は15.9%で, 平成17年の15.4%から0.5ポイント増加しています。

行政区別に見ると, 年少人口の占める割合が最も高いのは西区(15.9%)で, 次いで早良区(15.2%)となっています。一方, 老年人口の占める割合は, 西区, 城南区(ともに16.5%)が最も高くなっています。生産年齢人口の占める割合は, 中央区(74.0%)が最も高く, 次いで博多区(72.5%)となっています。

昨年まで年少人口が老年人口を上回っていた早良区においても構成比が逆転し, すべ

ての行政区において, 老年人口が年少人口を上回ることになりました。(表3)

4. 世帯員数別世帯数

世帯の3分の2が1人か2人の世帯

世帯構成員数別に世帯数を見ると, 福岡市全体では, 1人世帯の占める割合が43.5%となっています。また, 2人世帯の占める割合は22.6%で, 合わせると66.1%となり, 市内のほぼ3分の2の世帯が1人または2人世帯ということになります。

行政区別に見ると, 1人世帯の占める割合は, 中央区(57.8%), 博多区(55.1%)が高くなっています。さらに, 1人または2人世帯の占める割合で見ると, 中央区(77.2%), 博多区(75.2%)では4分の3以上となっています。一方, 1人世帯の占める割合が低いのは, 西区(31.7%), 早良区(35.5%)で, 3人以上の世帯の占める割合が高いのも, 西区(43.2%), 早良区(40.4%)となっています。

(表4)

表3 行政区別年齢別(3区分)人口

	平成18年9月末現在								
	福岡市	東区	博多区	中央区	南区	城南区	早良区	西区	
総数	1 361 060	265 166	183 748	158 540	242 776	120 970	208 178	181 682	
15歳未満	190 684	39 233	22 640	17 706	34 105	16 463	31 627	28 910	
15~64歳	954 264	183 474	133 164	117 273	168 862	84 559	144 136	122 796	
65歳以上	216 112	42 459	27 944	23 561	39 809	19 948	32 415	29 976	
(構成比)	%	%	%	%	%	%	%	%	
15歳未満	14.0	14.8	12.3	11.2	14.0	13.6	15.2	15.9	
15~64歳	70.1	69.2	72.5	74.0	69.6	69.9	69.2	67.6	
65歳以上	15.9	16.0	15.2	14.9	16.4	16.5	15.6	16.5	

表4 行政区別世帯員数別世帯数

	世帯数	平成18年9月末現在									
		世帯人員							構成比		
		1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人以上	1人	2人	3人以上
福岡市	630 866	274 317	142 516	98 079	82 101	26 533	5 481	1 839	43.5	22.6	33.9
東区	117 609	46 547	27 623	19 423	16 919	5 599	1 151	347	39.6	23.5	36.9
博多区	97 993	53 951	19 666	11 884	8 813	2 841	617	221	55.1	20.1	24.9
中央区	88 225	51 031	17 156	10 174	7 331	2 033	371	129	57.8	19.4	22.7
南区	109 651	44 713	25 762	17 952	15 066	4 904	967	287	40.8	23.5	35.7
城南区	55 436	23 426	12 568	8 950	7 557	2 414	413	108	42.3	22.7	35.1
早良区	88 329	31 334	21 267	15 867	14 211	4 448	896	306	35.5	24.1	40.4
西区	73 623	23 315	18 474	13 829	12 204	4 294	1 066	441	31.7	25.1	43.2

5. 小学校区別人口

人口, 世帯数とも平尾校区が最多

小学校通学区域に基づく校区別人口を見ます。

校区人口が最も多いのは, 昨年と同様に平尾校区(19,845 人)です。以下, 内浜校区

(19,058 人), 那珂校区(18,879 人)と続きます。

世帯数が最も多いのは, 昨年と同様に平尾校区(10,704 世帯)です。以下, 博多校区(10,433 世帯), 警固校区(9,151 世帯)と続きます。(表5)

表5 福岡市小学校区別世帯数及び人口

平成18年9月末現在								
区・小学校区	世帯数	校区人口	区・小学校区	世帯数	校区人口	区・小学校区	世帯数	校区人口
福岡市合計	630 866	1 361 060	草ヶ江	6 568	12 978	原北	3 096	7 707
東区	117 609	265 166	平尾	10 704	19 845	飯倉	4 356	9 926
馬出	4 683	7 877	高宮	6 783	10 303	賀茂	4 283	9 800
筥松	6 182	11 510	赤坂	5 812	10 372	有田	4 232	10 479
箱崎	6 317	11 326	南当仁	7 769	14 925	野芥	4 841	11 807
香椎	5 028	10 733	笹丘	5 062	10 886	大原	3 854	8 524
多々良	6 005	13 340	舞鶴	3 913	6 143	四箇田	3 433	8 741
名島	6 035	14 130	小笹	6 265	14 957	飯原	2 968	7 162
香住丘	7 930	16 676	福浜	2 783	6 005	有住	2 478	5 190
和白	4 489	10 754	鳥飼 *	309	682	田村	3 707	9 333
千早	2 405	5 529	南区	109 651	242 776	飯倉中央	2 215	5 283
城浜	2 507	4 535	三宅	7 647	15 601	小田部	3 363	9 295
若宮	4 211	9 899	花畑	3 854	9 455	百道浜	2 841	7 410
勝馬	100	310	玉川	7 457	13 813	脇山	973	2 656
志賀島	712	1 904	西高宮	7 334	15 445	内野	2 536	6 835
西戸崎	2 244	5 417	白佐	2 671	6 493	曲渕	69	197
美和台	6 293	15 601	宮竹 *	6 034	12 207	入部	2 809	7 495
八田	2 946	7 087	大楠	5 870	9 220	早良	1 530	4 019
和白東	5 138	12 411	若久	4 708	10 627	西区	73 623	181 682
舞松原	3 890	9 825	老司	3 678	8 801	姪浜	7 493	16 435
香椎東	5 224	13 022	長住	3 558	8 644	苅岐	5 598	15 306
青菜	4 474	12 651	筑紫丘	4 500	9 613	能古	329	782
奈多	4 001	9 532	西花畑	5 002	12 348	内浜	9 115	19 058
香椎浜	2 291	5 740	弥永	3 126	7 136	金武	1 415	4 104
香椎下原	6 129	13 035	東花畑	3 908	9 282	下山門	3 567	8 829
千早西	3 138	7 165	長丘	4 017	10 759	苅岐南	3 815	10 081
東箱崎	2 857	6 343	西長住 *	1 763	4 225	西陵	2 690	5 992
香陵	1 741	4 901	弥永西	3 469	8 539	苅岐東	2 245	5 261
松島	7 137	15 213	東若久	3 155	7 334	石丸	4 563	11 764
三苫	3 502	8 700	鶴田	2 891	7 576	愛宕	5 257	11 872
博多区	97 993	183 748	野多目	4 556	11 687	福重	3 439	8 163
博多	10 433	16 572	高木	4 228	8 330	城原	3 069	8 012
住吉	4 658	6 572	大池	3 589	8 458	愛宕浜	2 298	6 639
堅粕	5 668	8 512	塩原	5 756	10 547	今宿	4 461	11 346
千代	5 586	8 404	柏原	3 340	8 977	今津	1 475	3 340
吉塚	4 589	8 623	横手	3 540	7 659	周船寺	4 760	12 547
東住吉	4 567	6 545	城南区	55 436	120 970	元岡	3 365	9 146
席田	2 898	6 311	西長住 *	812	2 044	北崎	558	1 740
月隈	3 497	7 695	長尾	5 964	13 264	玄界	213	620
春住	4 461	7 447	鳥飼 *	3 840	8 658	小呂	63	214
板付	6 322	13 781	別府	7 196	14 586	北崎小西浦分校	342	1 155
那珂	8 891	18 879	七隈	5 979	12 239	玄洋	3 493	9 276
那珂南	6 480	12 575	堤	4 289	10 535	複数区にまたがる小学校区の合算		
東光	4 037	7 125	城南	6 413	14 241	宮竹【合算】	7 540	15 687
東吉塚	4 799	9 333	金山	3 762	7 619	西長住【合算】	2 575	6 269
美野島	5 642	9 663	片江	5 831	12 066	鳥飼【合算】	4 149	9 340
板付北	3 218	7 609	南片江	3 598	8 525			
東月隈	3 428	8 476	田島	4 954	11 073			
三筑	5 240	11 191	堤丘	2 798	6 120			
弥生	2 073	4 955	早良区	88 329	208 178			
宮竹 *	1 506	3 480	西新	7 260	15 244			
中央区	88 225	158 540	原	4 323	10 247			
大名	3 102	4 508	高取	7 332	15 042			
当仁	7 227	13 562	百道	3 242	7 189			
賀子	4 949	7 661	田隈	3 098	7 172			
警固	9 151	15 057	室見	4 746	10 437			
春吉	7 828	10 656	原西	4 744	10 988			

本表及び次ページ以降の統計表は、福岡市教育委員会が公表している「市立小中学校の通学区域」に基づいて、住民基本台帳に登録された人の住所地を各小学校区に振り分け、集計したものです。
 小学校名欄に「*」印を付した学校は、校区が複数行政区にまたがっているため、小学校区単位の数値は本表末尾に合算した値を示しています。

6. 自然動態

出生数が5年ぶりに増加

平成18年の自然動態は、福岡市全体で出生数13,255人、出生率(=人口1,000人当たりの出生数)9.74‰(パ・ミル)、死亡数8,915人、死亡率(=同死亡数)6.55‰で、自然増加数は両者の差4,340人、自然増加率(=同自然増加数)は3.19‰となっています。

平成17年と比較すると、出生数は713人の増加で、実に5年ぶりに増加に転じ、死亡数は153人の増加で、こちらは5年連続の増加、自然増加数は560人の増加で、5年ぶりに増加に転じています。少子化に歯止めがかかったか、今後の動向に注意を要します。

行政区別に見ると、多い順に、出生数は、東区(2,658人)、南区(2,202人)、死亡数は、東区(1,759人)、南区(1,479人)、自然増加数は、東区(899人)、南区(723人)となっています。平成17年と比べて、出生数は、南区以外の行政区で増加しています。

同様に出生率は、博多区(10.68‰)、西区(10.56‰)、死亡率は、博多区(7.15‰)、西区(6.79‰)、自然増加率は、西区(3.77‰)、博多区(3.53‰)となっています。

(表6),(表7),(図4)

表7 自然動態

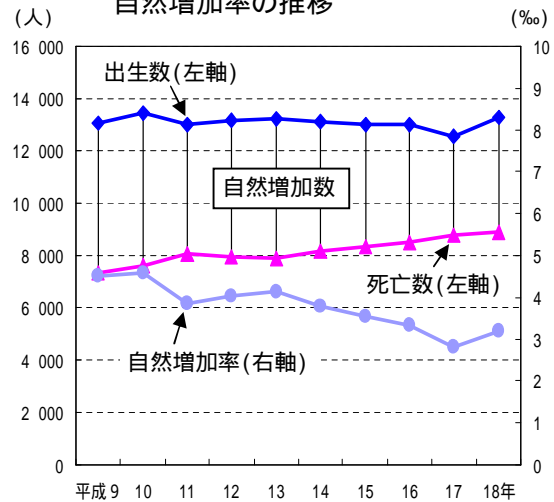
	平成17年			平成18年								
	自然増加数 人, ‰	出生数 人, ‰	死亡数 人, ‰	自然増加数 人, ‰	前年比		出生数 人, ‰	前年比		死亡数 人, ‰	前年比	
					人	%		人	%		人	%
福岡市	3 780 (2.80)	12 542 (9.31)	8 762 (6.50)	4 340 (3.19)		14.8	13 255 (9.74)		5.7	8 915 (6.55)		1.7
東区	745 (2.84)	2 495 (9.50)	1 750 (6.66)	899 (3.39)		20.7	2 658 (10.02)		6.5	1 759 (6.63)		0.5
博多区	507 (2.81)	1 778 (9.84)	1 271 (7.03)	649 (3.53)		28.0	1 962 (10.68)		10.3	1 313 (7.15)		3.3
中央区	282 (1.82)	1 226 (7.89)	944 (6.08)	449 (2.83)		59.2	1 386 (8.74)		13.1	937 (5.91)		0.7
南区	675 (2.79)	2 221 (9.18)	1 546 (6.39)	723 (2.98)		7.1	2 202 (9.07)		0.9	1 479 (6.09)		4.3
城南区	267 (2.21)	1 030 (8.52)	763 (6.31)	312 (2.58)		16.9	1 121 (9.27)		8.8	809 (6.69)		6.0
早良区	743 (3.59)	2 009 (9.70)	1 266 (6.11)	623 (2.99)		16.2	2 008 (9.65)		0.0	1 385 (6.65)		9.4
西区	561 (3.13)	1 783 (9.94)	1 222 (6.82)	685 (3.77)		22.1	1 918 (10.56)		7.6	1 233 (6.79)		0.9

注) ()内は、各年9月末現在の人口1,000人当たりの自然増加数、出生数、死亡数。

表6 自然増加数、出生数、死亡数及び自然増加率の推移

	自然増加数 人	出生数 人	死亡数 人	自然増加率 ‰
平成9年	5 718	13 056	7 338	4.53
平成10年	5 864	13 454	7 590	4.60
平成11年	4 938	13 000	8 062	3.85
平成12年	5 186	13 158	7 972	4.02
平成13年	5 366	13 243	7 877	4.12
平成14年	4 959	13 135	8 176	3.77
平成15年	4 706	13 024	8 318	3.55
平成16年	4 468	12 978	8 510	3.34
平成17年	3 780	12 542	8 762	2.80
平成18年	4 340	13 255	8 915	3.19

図4 自然増加数、出生数、死亡数及び自然増加率の推移



7. 社会動態

7,686人(前年比18.5%増)の転入超過

平成18年の社会動態は、福岡市全体で転入者数78,190人、転入率(=人口1,000人当たりの転入者数)57.45%、転出者数70,537人、転出率(=同転出者数)51.83%で、社会増加数は両者の差7,686人、社会増加率(=同社会増加数)は5.65%となっています。

平成17年と比較すると、転入者数は1,735人増加、転出者数は569人増加し、社会増加数は1,199人増加しています。

社会動態は平成8年以降、社会増(転入者が転出者を上回る)の状態が続いています。また、平成18年の社会増加数は、昭和56年以降最も多くなっています。

行政区別に見ると、多い順に転入者数は、博多区(14,913人)、東区(14,031人)、転出者数は、東区(13,183人)、博多区(12,360人)、社会増加数は、中央区(2,755人)、博多区(2,347人)となっています。

同様に転入率は、中央区(84.11%)、博多区(81.16%)、転出率は、博多区(67.27)、中央区(66.40)、社会増加率は、中央区(17.38)、博多区(12.77)となっています。都心部の中央区、博多区の数値がいずれも大きいことは、住民の移動が活発であることを示しています。

自然動態と社会動態を比較すると、前者は行政区間の各数値が近似しているのに対して、後者は区によってばらつきがあるのが特徴です。また、自然増加数4,340人に対して、社会増加数7,686人から明らかなように、福岡市の人口増加は、社会動態による増が大きな要因となっています。(表8)

(参考)

福岡市ホームページ

<http://www.city.fukuoka.jp/datafile>

統計表：校区別年齢別、町丁字別5歳階級、町丁字別世帯員数別世帯数

表8 社会動態(市外移動)

	平成17年			平成18年					
	社会増加数	転入者数	転出者数	社会増加数	転入者数		転出者数		前年比
					前年比	前年比	前年比	前年比	
	人,‰	人,‰	人,‰	人,‰	%	人,‰	%	人,‰	%
福岡市	6 487 (4.81)	76 455 (56.72)	69 968 (51.91)	7 686 (5.65)	18.5	78 190 (57.45)	2.3	70 537 (51.83)	0.8
東区	609 (2.32)	13 863 (52.79)	13 254 (50.47)	1 452 (5.48)	138.4	14 031 (52.91)	1.2	13 183 (49.72)	0.5
博多区	2 023 (11.20)	14 021 (77.60)	11 998 (66.40)	2 347 (12.77)	16.0	14 913 (81.16)	6.4	12 360 (67.27)	3.0
中央区	2 046 (13.17)	12 776 (82.23)	10 730 (69.07)	2 755 (17.38)	34.7	13 335 (84.11)	4.4	10 527 (66.40)	1.9
南区	145 (0.60)	11 954 (49.43)	12 099 (50.03)	38 (0.16)	73.8	12 188 (50.20)	2.0	11 995 (49.41)	0.9
城南区	630 (5.21)	6 051 (50.07)	5 421 (44.86)	446 (3.69)	170.8	5 664 (46.82)	6.4	5 610 (46.38)	3.5
早良区	950 (4.59)	9 887 (47.72)	8 937 (43.13)	48 (0.23)	94.9	9 715 (46.67)	1.7	9 209 (44.24)	3.0
西区	374 (2.09)	7 903 (44.08)	7 529 (41.99)	1 568 (8.63)	319.3	8 344 (45.93)	5.6	7 653 (42.12)	1.6

注) ()内は、各年9月末現在の人口1,000人当たりの自然増加数、出生数、死亡数。